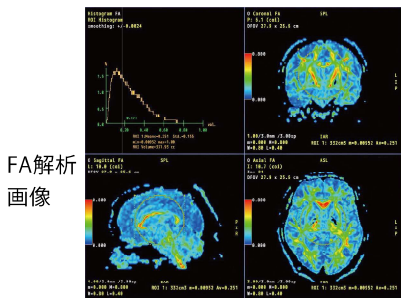


放射線室

画像センターでは、2～3ヶ月おきに定期的な検査を行っています。主な検査は、脳MRIとRI(Radiolotope)を使用した核医学検査です。

MRI・・・当初は、当院での脳MRI検査のルーチン検査にDTI(Diffusion Tensor Image:拡散テンソル画像)を加えて、脳神経線維を画像化していました(トラクトグラフィー)。

また、ASL(Arterial Spin Labeling)という撮影方法を追加したり、DTIの撮影後の解析でFA(Fractional Anisotropy:拡散異方係数)を測定して、傷害脳画像の水平断・冠状断などで定量的に評価しようとしています。

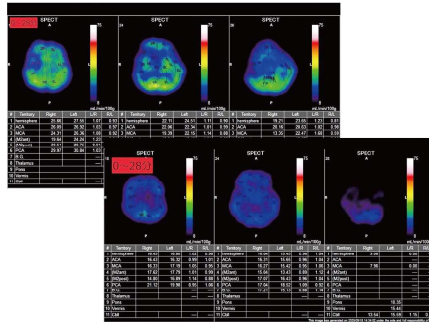


FA解析画像

核医学・・・核医学検査では、脳血流量を視覚と数値的に評価する脳血流量検査を行っています。全体的な低値と

局所的低値を示す症例が見られます。

今後も定期的な検査を積極的に行い、より良い結果が報告できるよう努めます。(高須賀)



脳血流量検査画像

NST(栄養サポートチーム)

医師を中心としたNSTの栄養管理は、経腸栄養剤を用い、PEG-Jと経鼻経管栄養でそれぞれ行っています。

一人の患者さんでは糖尿病や褥瘡があったため、必要栄養量を算出するにあたり、当初は糖質量や蛋白質量の設定に注意が必要でした。その後血糖値が安定、褥瘡も治癒し順調に経過していた中、嘔吐や便秘の問題が出現。薬剤調整と水分量・栄養素を考慮して経腸栄養剤の種類を変更するなどの調整に苦慮しました。

また、それぞれの患者さんが肥満傾向であり、必要な栄養量を確保しつつ適正体重に減量していくことも課題として挙げられ、栄養設定を行いました。その結果適正体重になり、血糖管理や消化器症状管理を経て、現在は安定しています。(管理栄養士 岡田)

おわりに

それぞれの専門職で取り組んでいることを、大変評価しています。今後さらに症例を経験し、新知見が蓄積されていくことを期待します。(主治医 山本)



ボランティア「白鷺」通信

コロナ禍における病院ボランティア活動 ～環境美化ボランティアさんの紹介～

ボランティア白鷺は「地域との懸け橋となり、地域との絆を深め、地域と共に歩み続ける」を理念として「ガイド・環境美化・図書・傾聴」のボランティアを2019年4月から始動しました。その後、コロナウイルス感染症対策による活動の休止がありましたが、感染予防における遵守事項を徹底し、一部の活動を再開、継続しています(7月末現在)。

再開の理由は、白鷺メンバーからコロナ禍でも「患者さんやご家族に、安心して外来受診をして欲しい」「病院の中でも、日常の風や季節を感じて欲しい」等の声が上がったことでした。

その一つである環境美化ボランティアは、植木の剪定、除草、水やり、花壇の整備等の活動を通し、患者さんやご家族だけでなく私たち職員にも、ほっこりとした癒しの空間を運んでくれます。今後も白鷺メンバーと協力し、患者さんやご家族にやすらぎと安心感、そして日常の風を

提供できるよう努めてまいります。また、地域の方が健康増進や生きがいの創出を目指して、気楽にご参加いただける地域コミュニティの一つとなるよう尽力いたします。

医療社会活動室長 井上 より子



【過去の仕事】 エンジニア

【ボランティア経験】 災害ボランティア、愛媛マラソン等

【趣味】 家庭菜園、花づくり、ハーモニカ

——活動の動機

健康のために外に出て、人と関わり役に立ち喜んでもらえる事がしたい

——活動してよかったこと

都合のいい時に参加できる、人と出会いふれ合える、感謝の言葉を聞ける、健康増進

——今後の活動

健康で身体が動く限り継続していきたい

山本さん(73歳)



【過去の仕事】 プラントの設計

【趣味】 物づくり、日曜大工

——活動の動機

自分から進んで奉仕活動を行い健康増進に繋げる

——活動してよかったこと

自分のペースで活動できるため、気を使わず人間関係等のストレスがない

——今後の活動

自分自身が健康である以上、ずっと継続したい

村上さん(71歳)

